

ドローンで空撮した安善寺とその周辺

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・高橋潔・室賀清輝
高橋利春・屋代健・飯泉隆史
近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信

後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社

ご家族の皆さままでご覧ください

『佛日輝を増し、法輪常に転ず』

翠巖 弘

今年の長岡は七月中旬頃より雨も降らず、猛暑が近づきましたが、八月のお盆が終わると同時くらしいに雨も降り、涼しくなりはじめました。最近

は庭の虫の音も大きく聞こえ、秋がすぐそこまで来たと感じられる日々となりました。それと同時に

十月六日の晋山、先住忌等々の法要も近づき、山内も慌ただしくなってきました。

そんな折、私も三十三年前、十月五日に厳修させて戴きました晋山式等

のことが懐かしく思い起こされます。

当日、山門法語(山門にて香を焚き、入寺するにあたっての見識、決意の言葉

を述べ)で、正面に瓦葺(当時)の堂々とした本堂を見た時、左右の両

門柱に彫刻された言葉「佛日増輝」「法輪常轉」「仏陀を日輪にたとえ仏の徳が無明の闇を破り、仏法の教化がたえずおこなわれ

他に転じて伝わる」を読み返し、これからは少しでもそれらのことがらに

近づこうに行じなければと深く感じ入ったことが、つい昨日のように思い出されます。

しかし「佛遺教経」に「譬えば小水の常に流れて則ち能く石を穿つが如し」の教えがあります

が、勤行精進、怠らず励めばどんな困難な事でも必ずやりとげることかぜでき

るとの教えでしょうが、私などは孟子の「道は爾きに在り而るに諸を遠きに求む」「人が行おうべき道

は、ごく身近に在る。それであるのに、わざわざ遠

い所にこれを求めようとす」の方で、多くの時間を無駄に過ごしたと反省させられます。

過ぎ去った時は二度と戻りませんが今後は、孔子の「知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ。知者は動き、仁者は静かなり」

「水：知者をたとえてみると流動変化して極まりなく、すべて宜しきになうもので、その働きは知者に似ている。

山：仁者を形容すると泰然自若として、内に蔵するものがあり、しかも誇らず、静かで、その働きに案じて

語ることもなく、あくせくしない」に少しでも近づけるように、知者、仁者ではありませんが、東堂として今後の日々を「小水石を穿つ」の毎日でありたいと願っております。

【日々精進(四十六回)】

過去を知り、今を大切に

近藤真弘

季刊「感王山安善寺」も平成十年(一九九八年)創刊から今号で第八十七号、二十一年半の長きにわたり発行させていただきま

した。これは偏に季刊誌発行の発案者であり、初代編集委員長である故安藤一夫様、株式会社アサヒ伊藤英與現社長、並びに編集委員として携わっていただいた方々、寄稿された寺院、檀信徒の皆様のお陰であると大変有難く思

います。創刊号が発行された際、私は二十一才、大学生の時でありました。その後、私が初めて原稿を書かせていただいたのは平成十二年発行の第八号で長野市の故藤本幸邦老師のお供として、中国山西省にご一緒させていただいた際のご報告がその内容でした。

ちようどその号は住職が大本山總持寺で焼香師を務めた報告の為、初めてのカラー印刷の号でもありました。

翌年の平成十三年から私は大本山總持寺の修行に入りましたが、修行二年目の平成十四年九月発行の第十九号から「大本山總持寺 雲水日記」というタ

イトルで連載が始まりました。内容的には修行生活の中で行ったこと、感じたことを修行僧の視点から様々書かせていただきました。平成十九年に總持寺

での修行を終え安善寺に戻り、平成十九年(一九九七年)の第三十九号からはタイトルを今の「日々精進」に変えて今号で連載四

十六回目となりました。

日々精進とは別に三年ほど前から「副住職通信」としてお寺の法要・イベント告知や、青年会、その他所属団体の活動告知、報告などで紙面を使わせて

いただいております。以前よりご案内の通り住職交代の晋山式も間近に迫ってまいりました。この紙面でも前々号より副住職通信の中で法要の解説もさせていただきまし

が、お陰様で準備も着々と進んでおります。現在の住職が安善寺の二十七世になりますので、この度は安善寺にとって二十八回

目の晋山式であります。季刊誌が発行され八十七号まで読み返してみると、二十一年間でも数えきれない出来事があり、また多くの皆様に支えら



れながら安善寺を護持してきたことが伺えます。二十七世まで四百年以上の歴史ある安善寺の住職にさせていただくということは大変なことだと改めて実感いたします。

仏教の教えの中に今を大切にするという教えがございます。過ぎ去った過去やまだ来ない未来にとらわれるのではなく、自分の足をしっかりと見て確実にある今の瞬間を大切に生きることの教えであり、常日頃から私も肝に銘じています。

ただ、今の瞬間があるのに過去があることはそれも大切なことです。安善寺にとっても歴代の祖師方のお陰様で今があります。幸いにも現在の住職が務めた三十三年間のうちその多くの事が過去の季刊誌で振り返ることが出来ます。それはまさに過去を知り今を知ることが出来る宝であります。

住職になるにあたり今一度読み返し、改めて今の有難さを感じ、十月五日、六日の大法要に臨みたいと思っております。

なぜ、いま坐禅をするの？

郷 保治

毎週基本的に火曜日、安善寺の坐禅会がある。

期間は4月から12月の撰心迄。毎回10名から15名のメンバーが集まる。

私がここに参禅するようになってから早24、25年位経つと思う。なかなか毎回の出席となると難しいわけですが、しかし朝のひと時、ただ座るために足を運ぶ。何のために？と考えることもあった。

古い顔ぶれが途切れていき、また新しい顔が揃っていく。みんな熱心である。最近は特に若い人が目立つような気がする。それも6時前の朝課の時間を共にする熱心な方だ、感心する限りである。

さて、坐禅をする人とは、どんな思いを持ってここに集まってくるのだろうか？ それぞれに質問をしてみたいと思うわ

けです。

精神修行と位置付ける人、あるいは充実した人生を送りたい人、さて私は何でここに通っているのだろうか。少し振り返ってみたいと思います。私は坐禅に興味を持ったのは「サトリ」という言葉に関心を寄せたからで

す。サトリとは何だろう、サトルと人はどう変わるのだろうか？ ひよつとして超能力のようなもの身に着けることなのかもと思っただけ。ところが25年近くやってみて少し解った。道元はこう言っている。「仏道を習うというこ

とは自己を習うなり」。仏教とは、自分を習うこと自分の生命の中に喜びを発見することである。

私たちが坐禅をしているときはどういふことか、というとき、酒井得元老師の言葉を借りますと「内に本性を見ずる」。この本性を修行しているのです。本性とは大自然です。この身体、この大自然を見ている。それが坐禅の実践、実習です。と「坐禅の真実」(発行所・大法輪閣)著述されています。

話しを難しく言うつもりはありませんが、要するに、道元が「自己を習うなり」と言っているのは、自分にはない知識を他人から教わることではない。もともと自分にあるもの、自分にきちんと備わっているものを学習し、気づくことである。

仏教の学び方は「学知にあらざ」である。一步自分の内側にひくのである、外側を見るのではない。自分の内側を見るのである。道元はこれを「生知」と言っている。



と愚かな考えを持っていたことだろうと気づくのである。振り返ってみますと、どういふことではないのである。しかし何と深遠で厳かな大宇宙のルールであろう。この有難い仏法・縁起に気づく事。筑波大学名誉教授が言う「サムシング・グレート」の事である。

無常の世界に住する私たちは常に変化の中にあり、ひと時とも留まることを知らない。頭の理屈にとどまらず築き上げた成功は、それはそれで世の中の役に立ったり、便利になったりします。いいところは沢山ありますが、禅的生き方は人生百年時代を、生き生きと豊かに過ごすには最も必要なもののような気がいたします。

変化を恐れず自由自在に生きる。これが悟りの世界かなと思えるようになります。いままだ「大悟」足りえず。令和元年お盆の頃である。

「振り返れば・・・」〔回想〕

小野 裕

大正13年1月雪の降る寒い日でした、東北電力に勤める父と、阪之上小学校の教員をしている母との間に生まれた一人娘です。20才を過ぎた暑い夏の日、8月1日午後10時30分から始まったアメリカ軍の大空襲は、長岡市の中心部を標的に焼夷弾が大量に投下されました。

〔投下された焼夷弾等は925トン、焼夷爆弾や子弾の数は16万3000発余り。すさまじい攻撃により、市街地の八割が焦土と化し、14780余名の命が奪われたとのことです。〕
〔ウィキペディアを参照しました〕

火災から逃れようと、大勢の人たちが柿川へ身を投げ亡くなった方も多いと聞いております。父が左手に大火傷を負い、治療のため学校町にある親戚の家に疎開しました。戦後、会社が建ててくれた社宅へ引越しました。

社宅と云っても4軒の棟割り長屋です。結婚し、一男二女に恵まれ7人で狭い社宅に身を寄せ合って暮らしていました。時が過ぎ、父の退職を機に柏町に古い家を買ひ、少し手直しをして新居としました。その古家は、棟割り長屋とは違い台所を含め8室もある大豪邸でした。〔笑〕

昭和38年の三八豪雪、大積から高校へ通う親戚の子が雪でバスが止まる為冬期間だけ我が家へ下宿することになり、更には他の高校へ通う女子高生2人が新たな下宿人に加わり、女子高生が卒業した後、お巡りさんが2人、そして高専へ通う「星君」が最後でした。そうそう、夫が税務署勤めで各地へ単身赴任していたため、下宿屋のおばさんができたのでした。

長男が高校を卒業し東京へ就職、5年も経ったころ、1人で上京した長男が2・5人で帰ってきました。初孫の誕生です。2人目の孫が誕生した



孫娘の結婚式で

ころ夫が定年、戦前の建物だった柏町の家を処分し、新興住宅地である希望が丘へと新居を移し、ようやく自分たちの思う家が完成しました。周辺の家は少なく夜になると辺りは真つ暗でした。

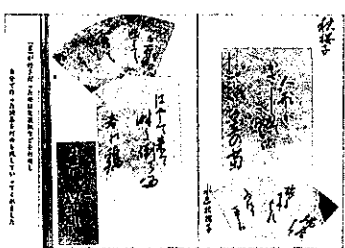
時が流れ、父が旅立ち、税理士をしていた夫の繁忙期が終わるのを待っていたかのように平成5年3月18日、母が旅立ちました。翌年、夫が去り、我が家は長男夫婦と私、また3人になってしまいました。

寂しがつてばかりいられない、これからは自分の好きなことをやってみよう：と、まえから好きだった「書」を習い始めました。長岡市が主催する教室に通い、お友達もたくさんでき（旧）厚生会館での秋の展覧会にも出品しました。お菓子やさんの包装紙を使い自分で詩集を作ってみました、何冊になったかナァー！。

年を重ねるにつれ若いころに痛めた右足がそろそろ悲鳴を上げ始め、杖をついて石造りの階段の上り下りが辛くなってきました。已む無く教室を辞めしばらく家に居りましたが、お友達からの誘いで「デイサービス」とやらを見学、なかなか良いもんだナァーと思い、通い始め、またまたお友達ができました。

戦時中の早飯食いが身につについていてご飯をかき込む癖が治らず、それがもとで「誤嚥性の肺炎」をおこし、2度も入院をしてしまいました。退院後、嫁は自宅で介護する！と言ってくれましたが、若いころスポーツをやっていたこともあり少々骨太で体格が良かった私を在宅で介護するのは老々介護になると思い、病院の勧めもあって、三条市下田の「かもしか病院」へ入所することにしました。

施設の人たちの介護が親切で温かく、ついつい長逗留になり、1年9ヶ月の間お世話になりました。もう良いかナァー！、令和元年8月4日、嫁と孫娘夫婦が来るのを待って、旅立つことにしました。先に旅立った我が家の愛犬「エル」(ポメラニアン)の案内で、夫と両親の待つ花園へ向かっている途中です。



自作の詩集と愛犬エル

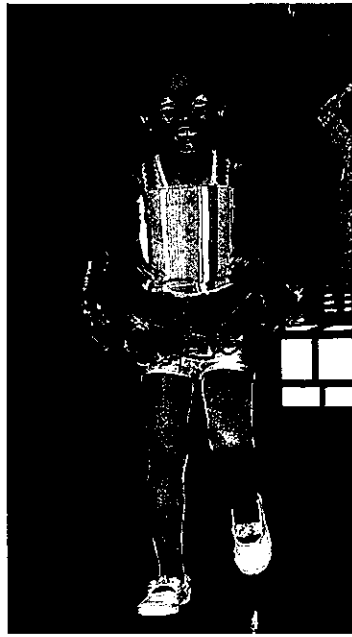


ふと、下を見ると大勢の人たちが手を振ってくれています、もうすぐです、ありがとうございます。
小野ハジメ回想
(代筆)長男

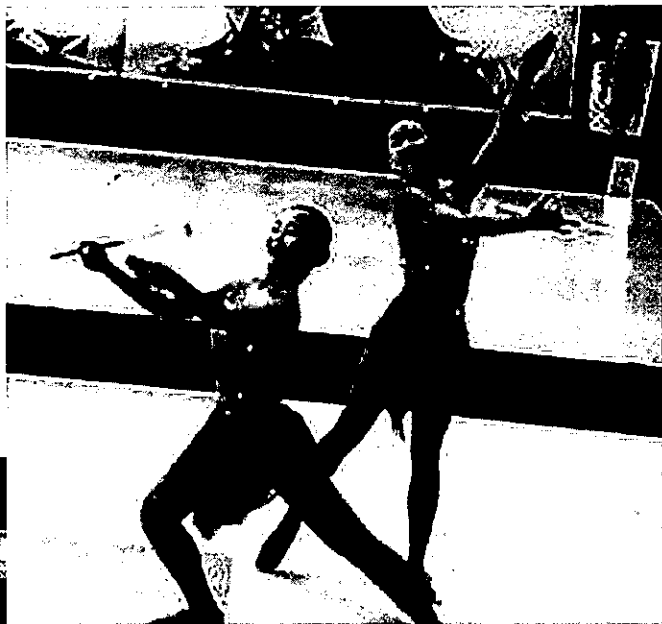
仲良し3人組が世界に羽ばたいた!

屋代 健

娘がバトントワリングを始めたのは、2歳6か月位だったかと思えます。妻が、同じ幼稚園に通っていた2つ上の娘さんが長岡祭りの前夜祭でバトンを踊ると聞いて、娘を連れて見に行つたそうです。娘は初めて見るバトンに一目惚れをして、自ら「バトンをしたい!」と言つたらしいのです。真実はよくわかりませんが、2歳を過ぎた娘は、当初オムツを履いて踊っていたようです。それから、色々な出演で、かわいい



衣装を着せてもらえて、楽しくバトンをしていました。小学校1年の時に、初めてバトンの大会に出場しました。結果は、35人中29番目、娘は悔しくて泣いたそうです。それ以来、真剣にバトンをするようになりました。バトンを習うようになってから、いろんな学年のお友達ができました。同じ檀家さんである安藤家のさやかさん、成海さんとは、娘より年上なのに、一緒にバトンの練習をしたり、お互いの家を



行き来して遊んだり、三姉妹のように仲良くさせて頂きました。その安藤さん姉妹と娘の3人が、8月にフランスで開かれたバトンの世界大会に出場させて頂きました。5日から11日にかけて二つの世界大会が行われ、アーティスティ

ックペアという種目で成海さんと娘が組み、5位に、ソロトワールとい



バトンで演技する種目で娘が2位、トウバトンという2本のバトンで演技する種目でさやかさんが6位となり、3人全員が入賞しました。フランスとの時差は7

時間ありましたので、一人日本に残つた私は、深夜にユーチューブでのライブ映像を見て、眠い目をこすりながらも応援していました。世界大会では、演技を競うだけでなく、日本全国並びに世界のバトン選手の方々と交流を深めたようです。世界大会に出場させて頂いた関係者全員の皆様へ感謝、感謝。そして、娘たちを応援してくださいました安善寺のご住職様をはじめ多くの皆様様に感謝、感謝!! 本当にありがとうございます。



10月6日(日)の諸法要 ~その2~



しゅそほっせんしき 首座法戦式

この度、第一座首座を務める市内妙喜寺の諸橋健太和尚の力量を試すべく大問答が繰り広げられます。曹洞宗の法要の中でも特に迫力のある法要です。

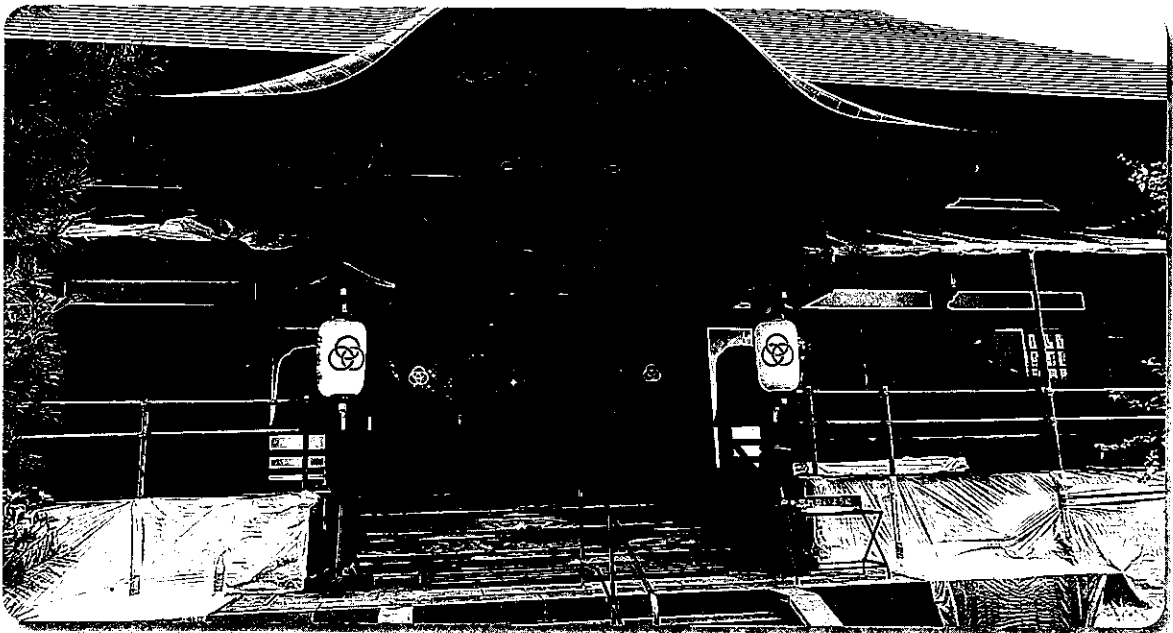


たいとうしき 退董式

「董」は、寺院を正し管理する者という意味で、住職のこと。したがって、退董は住持を退くことを指す。32年間、龍弘方丈が27世として務めた安善寺住職を退く式です。是非多くのお檀家様にご参列いただければ幸いです。

だんしんと そうえこう 檀信徒総回向

私が安善寺住職として初めて務めるお檀家皆様の先祖供養の法要です。この法要では修行時代の仲間や、友人の僧侶など県外からこの日の為に駆けつけてくれた僧侶に諸役をお勤めいただきます。



仮設参拝場所を設置した本堂

鳥は高く飛んで以て翳弋の害を避く。「莊子」

10月6日(日)のご案内

【スケジュール】

7:30 安下処出発・稚児行列出発
(本堂の中からお覧ください)

8:00 晋山法要開始

しんさんけっせい

8:40 晋山結制

しゅそぼっせんしき

9:40 首座法戦式

10:30 先住三十三回忌

たいとうしき

11:30 退董式

引き続き

だんしんとそうまごう

檀信徒総回向

13:30 祝斎(ホテルニューオータニ長岡にて)

※法要の進行状況により多少の時間変更があります。

先にご案内の通り上記の時間帯にて法要を厳修いたします。法要にご参加されま
す方はご参考いただきお参りください。

- 朝早く恐縮ですが、七時半～八時頃を目途に直接安善寺にお集まりいただければ
と思います。ご都合により途中からご参加でも構いません。
- 当日は駐車場がいっぱいになることが予想されます。お車でのお越しはご考慮い
ただければ幸いです。
- 祝斎に出られる方は法要後安善寺より送迎バスをご手配いたします。
- 本堂前に受付を設置いたします。

大本山總持寺へ
お米を送る運動

修行僧に越後のおいしいお米を!

献米 〇山寺 〇山寺 〇山寺

詳細は寺院にお尋ねください

総和会嶽山会新潟県中越支部

大本山總持寺に
お米を送る運動のご案内

例年ご案内させていた
だいております大本山總
持寺にお米を送る運動で
すが、本年も実施させて
いただきます。

昨年もお陰様で多くの
新潟米を本山にお届けす
ることが出来ました。本
年もご協力いただける方
は下記の内容にてお寺に
お米をお持ちいただくか、
ご連絡をいただければ取

りに伺います。仏道修行
に励む修行僧のために何
卒ご協力の程お願い申し
上げます。

記

○お寺にお持ちくださる
方は10月の晋山式以降
でお願い致します。

○平成三十年産の古米
玄米。

○十キロ以上で米袋にお
名前を記入

ボブの独り言



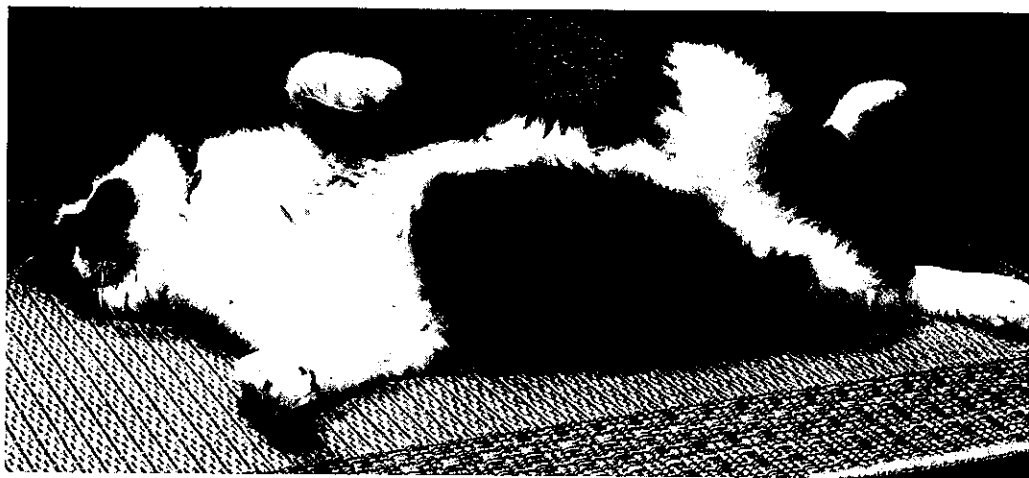
秋になると変わる？

ボブの独り言

暑い暑い夏もいつのまにか、本当にいつの間にかです。蝉の鳴き声（今年はあまり多くなかったのですが）に変わって、夜になると虫の音がいつそう賑やかに聞こえるようになり、グッタリしていた庭の草木も元気を取り戻し、毛皮を着ている私やもちちゃんもほっと一息です。

この猛暑は、建物にも影響があったようです。「トイレのタイルはずれてますよー」って、声が出たので行ってみると本堂脇の男子トイレ。タイルが三十枚位はずれそうになっているのです。

早速、修理をお願いしたのですが、その原因が、この猛暑でタイルが膨張したのだとか？ 夜は物騒なので窓を閉め、電気



代がもったいないので、換気扇を消していたのが原因だったとの事。いろんな事、経験しないと分からないものですね！ 納得です。

この秋に住職がかわる式があるのだそうです。その準備で、お盆過ぎから毎日のように、いろんな職人さんが出入りしています。本堂も

副住職の結婚式以来の畳替えて、すっかり綺麗になって、私など一歩も入れない雰囲気です。

第六号で、先代ペコから始まった「ボブの独り言」他愛無い事を吹き続け、気が付いたら二十歳の歳月が過ぎていました。思い返せば感慨深く、深い独り言でした。

住職がかわる式には、真人君も一休さんのような装いで、大切な、お役があるようで、時折、練習している声が聞こえてくるのですが、大勢の人の前で萎縮してしまわないか、私も今から、ハラハラ、ドキドキしているのです。

ニヤーン

編集 雑感

今年って何年？と聞かれたら皆さん何年と答えますか。ほとんどの方は令和元年か2019年と答えられるでしょうね。私が説明するまでもなく、令和は日本における元号です。2019年は西暦です。

元号は天皇が皇位を承継する際にのみ改めることになっていきます。西暦というものが645年に大化の改新のときに「大化」が制定されたのが最初の元号で、250の元号が制定されてきているといわれます。

それまでは天皇のお名前と〇年という表現をするのだそうです。明治以前は天皇の皇位の承継の時だけでなく疫病が流行したとかで度々改元されたそうです。

お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さんと、ごいっしょに誌面を深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。
- 嬉しい・楽しい嬉しかったこと、怒ったこと、悲しかったこと。

です。西暦はキリストの生誕から数えての年数というところで、これからは毎年一年増えていくものです。もともと実際のキリストの生誕日は四年違っているとの見解もあります。世界にはいろんな年数表現があり、東南アジアではお釈迦様の亡くなられた時よりの年数で計算される仏滅紀元というものが使われており、今年が仏滅紀元2563年になるそうです。

安善寺では10月6日に晋山式が執り行われます。龍弘住職から真弘住職への交代式ということですが、皇位継承と同じに扱うのは恐れ多いかもしれませんが、龍弘三十四年から真弘元年になるとも云えます。

晋山式は新命方丈様がその寺院へ晋む（進む）ことで、報恩と檀家の皆様をはじめ世の人々の安寧を祈願し、これからの決意を問答で表明される儀式で、大変荘厳なものになることでしょう。

私は初めて立ち会わせてもいます。大勢の皆様にも立ち会って頂きたいと願っております。

高橋 潔

第八十八号、新年号は令和二年一月一日（水）発刊予定です